

分科会名	研究主題「豊かな人間性を育むための地域連携の取組」		
第2分科会	～地域連携を推進する教頭のかかわり～		
提言者	白石町立福富小学校	氏名	中村 初男
協議の柱	①人間性を育む地域と連携した取組みを行うために、副校長、教頭としてどのように関わればよいか。		
協議内容	<p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携を深めるには、準備や打ち合わせ等負担感も大きい面もあるが、効果や手ごたえも大きく、地域との窓口を担う教頭の役割は重要である。 ・ 年度当初に全職員に共通理解を図り、教頭がうまく職員と地域人材をつなぐことが大切だと思う。 ・ 以前から続くものに加え、新たな取組を増やすことは難しい。見直しが必要。目的、効果等を考慮して、思い切って削減することも必要ではないか。 ・ 地域の協力を得るだけでなく、これからは地域に貢献することが大切だと思う。そのような活動を通して、地域を愛し、地域を誇りに思う気持ちを育てていくことが求められている。 ・ 地域の歴史・文化・人材等熟知している「地域連携協働コーディネーター」がいると、スムーズな連携が期待できるが、市町によって財政面で難しいところもあり、教頭に委ねられている部分が多い。行政・公民館・自治会等との連携を進めていく必要がある。 ・ 持続可能な組織・体制づくりが必要。教職員は人事異動で毎年入れ代わり、「教頭だけが知っている」では機能しない。教頭は、「職員と地域を繋ぎ、職員を巻き込んでいく」「地域人材リストを更新・継承し形に残す」等、次年度もスムーズに連携できるようにしておく必要がある。 ・ 地域人材についても、地域のことをよく知っている方を頼っている面があるが、固定化・高齢化が進み、地域の方の世代間の引継ぎ、世代間の温度差の解消等も課題である。 ・ 地域連携をすすめていくと、休日に地域の行事に参加したり、勤務時間外に地域の方と打ち合わせをしたりする場合もある。教職員が負担感をどう解消していくのか課題である。 		
指導助言者	西部教育事務所 指導主任	氏名	陣内 美紀 様
指導助言者からの助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ H27中教審で「チーム学校」が示されたあと、コミュニティースクールに代表される、地域と学校の協働・連携の重要性が高まっている。キーワードは、【体系化】【見える化】【共有化】 ・ 地域の「ひと・もの・こと」をどうつなぐか整理し、人材リストを作成するなど、連絡・連携体制作りを行うことが大切である。 ・ 年間指導計画の中に、教科・内容・地域連携を関連させていくことで、ねらいや活動の関連が明らかになり、担任も年間を通して、どのような地域連携をどの教科と関連させて取り組むのか見通しを持つことができる。 ・ 学校運営委協議会に全員が参加する機会を設けたことで、地域の方と職員が「Face to face」で向き合うことができよりよい連携が図れるのではないだろうか。 ・ 毎年行っている活動だからと形骸化することなく、キャリア教育との関連を図り、「どんな目的で」「どんな子どもを育てたいのか」を、学校と地域で共有していくことが重要である。 		

分科会名	研究主題「配慮を要する児童生徒への支援のあり方について」		
第2分科会	～支援を充実させるための教頭の役割～		
提言者	伊万里市立青嶺中学校	氏名	塩田 洋己
協議の柱	① 配慮を要する児童生徒への支援について、教頭としてどう関わればよいのか。		
協議内容	<p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教頭が対応することで、保護者は学校全体で支援してくれているという安心感がある。 ・ 保護者、家族の特別支援教育に対する理解が不足しており、啓発が必要。 ・ 特別支援学級が急増している現在、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当の育成をしていかなければならない。 ・ 特別支援教育システムを構築し、巡回相談等の活用等を進めていく必要がある。 ・ S S, S S W関係機関とつないだ後、いかに保護者の理解を得るのが難しい。きめ細かい指導のメリット等、時間をかけて説明し、教頭と保護者の信頼関係を築いていくことが大切。 ・ 教頭、担任、養護教諭、S C. S S W等学校関係者だけでなく、福祉等の行政機関や医療機関との連携も必要。 ・ ケース会議にも、外部機関からの参加の要請を行い、情報共有段階から連携することで、より効果的な支援ができるのではないだろうか。 ・ 小中連携がうまくできていないケースもあるのではないか。生徒指導、教育相談、養護教諭、特別支援教育、学力向上等、それぞれの担当が確実な引継ぎをして、個々のニーズや適性に合った支援を引き継ぐことが大切。 ・ 支援マップ（提案で示された様々なケースごとの支援要請の連絡先リスト）は、教頭が支援を要請したり、保護者に対してすばやく相談先を紹介したりすることができ、とてもいいと思う。 ・ 子どもの不利益にならないように、情報管理をすることも、教頭の大きな責務。 ・ 担任を孤立させない、担任だけで対応させない。担任だけでは、子どもへの思いが強すぎて、親を追い詰めてしまうこともある。 		
指導助言者	西部教育事務所 指導主任	氏名	陣内 美紀 様
指導助言者からの助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教頭として情報の「見える化」を心がける。 ○ 校内での支援会議、ケース会議等、「誰が」「いつまでに」「何をするのか」を、事前に教頭がコーディネートしておく。情報交換に終わらず、学校内外の支援体制を整えることが大切。 ○ ホワイトボード等を活用し、現在の子どもの状況、相談室の使用可能状況、対応できる職員等視覚的に示した提案は、「誰が、いつ、どこで、何をしている」ことが明確にわかり、すばやくよりよい対応をするのに有効だと思う。 ○ 不登校が減っている学校は、外部機関を積極的に活用している傾向にある。S C, S S W, S S F等、ケースに応じて連携していくことが大切。 ○ 小中連携では、個別の支援シート、アセスメントシート等を活用していくことで、有効的な引継ぎができるのではないだろうか。 		